

巻 頭 言

愛媛大学工学部等技術部長
(工学部長) 八尋 秀典

愛媛大学工学部等技術部の平成 27 年度における活動状況を「愛媛大学工学部等技術部活動報告集 Vol.15」として取り纏め、皆様方にお届けいたします。

平成 22 年度から始まった第二期中期目標・中期計画期間も平成 27 年度で終了し、平成 28 年度から第三期に入ります。愛媛大学は「地域活性化の中核および特定の分野で世界的全国的な教育研究を目指す大学」を選択して、新たな目標に向けて動き出しました。一方で、全国的に理工系人材育成に伴う学部・大学院の改組ならびに新しい教育プログラムの開設などが進んでいます。本学でも平成 31 年度に向けて理工系学部の改組が予定されています。この理工系人材育成には、これからの日本を支える多種多様な高度技術者・研究者の育成を主眼においており、従来の人材育成プログラムを見直し、新しい視点でのプログラムに発展させる必要があります。「高度な技術」は年々進化するものであり、学理を伝える講義だけでは到底教授することができず、実験・実習などの学生参加型の教育が不可欠です。本学の技術系職員は旧来の技術に留まることなく新しい技術の導入に積極的に行っており、学生参加型教育プログラムを通じて、その技術を学生に着実に伝承しています。このように教員・技術系職員が一丸となった理工系人材育成がこれから重要であるといっても過言ではありません。



工学部等技術部は、実験・実習など学生参加型授業での教育支援、実験機材の作製や物性評価などの先端研究を支える研究支援、オープンキャンパスや科学体験フェスティバル等の学外者を対象にした社会貢献行事への支援等、年間を通じて幅広い活動を実施するとともに、学内技術職員発表会の開催や各種研修会への参加を通じた技術力向上の取り組みなど多彩な活動を積極的に行ってきました。

平成 27 年度は中国・四国地区国立大学法人及び独立行政法人国立高等専門学校機構の技術職員等を対象とした「平成 27 年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修 ー土木・建築系、物理・化学系ー」を本学技術部が中心となって主催しました。本研修には、16 機関から計 47 名が参加し、本技術部からは機械・環境建設系、化学・材料系、自然科学系の各技術班から計 13 名が受講しました。多分野の教員からの講義や実習、施設見学などを行い、「技術力の向上」に向けて新たな専門知識、技術等を習得することができました。

最後に、この活動報告集が工学部等技術部の広報活動の起点となり、多くの方々からのご助言を得て、技術部の今後のさらなる発展につながることを期待しております。ぜひご一読いただき、技術部へのご理解とともにご批判ならびにご鞭撻を賜れば幸いです。